

## ～2023年・湖南省視察記～

### JSC 貿易部ニュース



いつもお世話になっております。毎号メルマガをご覧いただきありがとうございます。

中国出張が再開して2回目の渡航ですが、今回は湖南省の石の調査・視察に行つて参りましたので、その模様をお伝えしたいと思います。

湖南省は、福建省や山東省に次ぐ石材の産地として知られており、以前から「G9426」や「G213」といった石が日本の石材業界でも広く認知され用いられています。

また近年は、「湖南623」が枯渇する福建省産「G623」の代替品として受け入れられ、全国で使用されてきました。しかしながら、昨年来より湖南省の各丁場の採掘が不順との情報が相次いでおりましたので、今回現地調査を出張計画に組み込みました。

また湖南省といえば、中国でも有数の激辛料理が有名ですので、そちらでも期待に胸を膨らませて現地に向かった次第です。



最初に訪れたのは、「湖南623」の採掘現場です。

場所は湖南省平江県、省都の長沙市からは北東に約120kmの位置にあります。車を走らせ、市街地から離れ、田んぼや貯水池を抜け、小高い丘を登っていったところに採掘現場の山肌が姿を現します。

現在、採掘は停止中で入口はフェンスで遮られています。



ご承知の通り、「湖南623」の丁場は去年末で採掘許可が切れており、新たな許可を申請中です。

現在の丁場の状態は？と言いますと、採掘現場には水が溜まり大きな池のようになっています。相当期間採掘していないのが伺い知れますが、採掘面積自体は非常に広大でかなり大規模に採掘していた様子がわかります。

同行してもらった採掘会社のオーナー「Z氏」によると、周囲には「湖南623」と同系統の石の丁場が20カ所以上あるそうですが、そのうち日本向けの墓石・外柵用のA級材として販売できる石は5%ほどしかないという話でした。

開採の見通しについてですが、Z氏の希望的観測も含まれていると思いますが、採掘許可が下りるまでには「それほど時間は掛からない。おそらく今年中には再開できるでしょう」との見解。外柵材として浸透してきていた「湖南623」の供給再開は、私たちが期待しているところですので、吉報を待ちたいと思います。



丁場視察後、「Z氏」の親族が経営しているレストランで夕食を取ることになりました。

待ちに待った湖南料理です。

写真は、店の前で無造作に干されている青唐辛子。期待が高まります。

さて、期待の「湖南料理」、どれも辛さを感じさせる「赤っぽい」色味です。

ご想像の通り、赤や緑は全部唐辛子です。写真にはないですが、普通のチャーハンにも唐辛子が見え隠れしますが、それはご愛敬。

ちなみに左上の料理は「ヘビ料理」。皮がコリコリして美味しかったです。

お店には「外国人が来るから、あんまり辛くしすぎないように」とオーダーしてもらっていたようで、実際に食べてみるとちょうど良い辛さでした。

夕食後、平江県から約500km離れた明日の目的地、懷化市溆浦県に向けZ氏の運転で移動です。

翌日、最初の視察は「G9426」の採掘現場です。白御影の墓石・外柵材として、日本でも20年以上の使用実績がある石です。



こちらも、最近まで許可証待ちで停止していたようですが、訪問時にはすでに作業が再開していました。大きなものでは4メートルの長さの原石も取れています。

「G688」や「AG-98」など福建省産の墓石・外柵用石種も在庫が逼迫してきていますので、黒玉さえ少々目をつぶれば、十分代わり石として使用できそうです。

懷化市でのもう一つの目的地は「G213」の採掘現場です。「G9426」から直線距離で約3km、小さい山を2つほど超えた場所にあります。



こちらの丁場は、進入口が大量のコツパ石で塞がれており、人気（ひとけ）もなく重機も入っていないので、一目で停止中と分かります。

地元の人に聞くと、まだ正式に許可証が下りていない上に、採掘の権利関係が複雑らしく、なかなか話が前に進んでいないようです。

「G213」は、福建省各工場の原石在庫もほぼ払底していますので、早期の再開を祈るのみです。

今月は湖南省産の石の現状を詳しくご紹介しました。来月もまたホットな情報をお届け致しますので、引き続きJSCメールマガジンをよろしくお願ひ致します。